

◆夢を育み 明日が待たれる 魅力ある学校づくり◆

北教だより

茨城県県北教育事務所
令和8年8月5日(水)

第5号

電話 0294-34-0774

E-mail:hokukyo@pref.ibaraki.lg.jp

夏休みに入り、4月からの振り返りや9月以降の実践に向けて校内研修の計画・実践がされている時期かと思います。そこで**国語科及び外国語活動・外国語科の授業で求められる指導のポイント**をまとめました。引き続き、探究的な学びの視点からの授業改善を通して質の高い学びの実現に向けた取組の参考にご活用ください。

求められる授業づくり <国語> **ポイント** 生きて働く知識及び技能の育成 [漢字指導編]

以下は 6/29(月)・7/6(月)に実施された「第1回アセスメント問題の結果に基づく学習指導の改善・充実に向け研修会」(小5年、中2年担当対象)で示された課題のある問題の県北地区の結果です。

【小・中共通課題】 同じ読み方をもつ漢字(同音異義語)

※()は県との比較

	問題	解答	解答類型	反応率
小学校	きょうりよくして仕事をする	協力	I	84.6% (+1.6)
中学校	いがいな結果が出た	意外		78.5% (+2.6)

上記のように、先生方のご指導と児童生徒の努力の成果が見られました。一方で、児童生徒つまずきはどこにあるかを、各学校の解答類型や実際の児童生徒の誤答から探り、今後の授業改善に生かしてください。

【漢字指導のゴール： **文脈に即して漢字を正しく書く力** を身に付けること。】

しかし・・・形が似ていたり読みが同じだったりして間違えてしまう・漢字を書く必要性を感じない
何度も練習しても覚えられなくて苦痛・画数が多くて難解 など苦手意識をもつ児童生徒は多い。

⇒ **漢字への苦手意識の克服を目指す指導** が求められています。

そのためには？ 【児童生徒が**実感できる**授業を！】



[1] **漢字の面白さ**を実感できる学習

漢字の成り立ち 絵や記号 ⇒ 「どんな漢字かな?」、漢字 ⇒ 「どんな絵や記号かな?」
どんな漢字が組み合わせられてきたかな?
自分のオリジナルの漢字を創るとしたら?

○漢字の形 この部首の意味するものは? ⇒ この漢字の意味は?

○漢字の音 この部分の読み方は? ⇒ この漢字の読みは?



[2] **漢字の利便性・有用性**を実感できる学習

- ①漢字は少ない文字数で多くの情報を伝えられる
- ②漢字・平仮名・カタカナを使い分けることで、視覚的な区切りができる
- ③漢字の意味を知っていると、文脈から言葉の意味を推測することができる

◎ 具体的な事例について、以下で紹介しています。授業づくりの参考にしてください。

教育情報ネットワーク ⇒ ポータルサイト ⇒ 文書共有 ⇒ 13_県北教育事務所

ヒント 以下も参考にしてください。

※意味や送り仮名も学べるよう、**文字でなく語彙として、練習したり問題を解いたりする場を設定する。**

※**児童生徒自身が、「漢字練習後に自分でミニテストを作って解く」**ことを習慣にする。

※各教科や家庭学習など、**日常生活の中で児童生徒が漢字を書くことを意識できるよう働きかける。**

【国語科はすべての学習の基盤です。**学んだ知識・技能を、日常でも児童生徒が使えるよう**ご指導願います。】

授業づくりのヒント③ 【外国語科編】

令和8年2月に、各学校から提出していただいた「中学校英語発信力向上事業指導事例報告書」をもとに、多くの学校に共通して見られた成果と課題を整理しました。

＜県北管内の成果＞

- ・Small Talk やプレゼンテーションなどの取組により、子どもたちが英語を話す機会が確実に増えてきた。
- ・英語で伝えようとする姿勢や、即興でやり取りしようとする意欲が向上してきた。

＜県北管内の課題＞

- ・「やり取りが続かない」
- ・「翻訳ツールや AI 等に頼ってしまう」
- ・「表現の幅が広がらない」

今回は、その結果を踏まえ、今後の授業改善のヒントとなる取組をいくつかご紹介します。

【課題改善に向けた授業づくりの例】

1 やり取りを続ける力を育てる

Step1 会話の基本形を確認する

(例) A: What () do you like?

B: I like () because (). How about you?



Step2 話を広げる

- ① 相手に聞き返したり確かめたりする(Pardon? / You mean...,right?)など
- ② 相づちを打ったり、つなぎ言葉を用いたりする
(I see. / Really? / Sounds good. / That's interesting. / Tell me more.)など
- ③ 相手の答えを受けて、自分のことを伝える
(I like ~ too. I play ~. I don't like ~.)

→子どもたちに定着するまでは、役立つ表現として電子黒板などで提示し、会話に取り入れながら、話を続けられるようにする。

Step3 話題を発展させ、やり取りを続ける

相手の答えに含まれる情報を手がかりに「関連する質問」を重ねる。この QA の活動をつなげて、つなぎ言葉を間に入れていくことで、即興でやり取りが続いていく。

【キーワードをつないで会話を広げる練習例】

ペアを A と B に割り振り、5W1H 等を使って、A が質問し、B が答える。1つ質問が終わったら、A がそれに関連する質問をさらに行う活動を取り入れる。こうすることで、子どもたちは、**相手の発話を手がかりに質問を考える**習慣が身に付き、即興でやり取りを継続する力や、相手に応じてコミュニケーションを発展させる力を育成することができる。

A: What did you do yesterday?	→	B: I went shopping with my family.
A: Where did you go shopping?	→	B: I went shopping in Mito.
A: Did you buy anything?	→	B: Yes, I bought a cap.
A: How much was the cap?	→	B: It was 2,000 yen.

2 「既習の単語」で表現する力を育てる

→翻訳ソフトや AI の表現をそのまま使うのではなく、自分が知っている英語で相手に分かりやすく言い換えるようにする。そのためには・・・

(例) (1) 教員 (ALT) が例を示す

(2) 翻訳ソフトや AI が示した言葉について、ペアの1人が**既習の語(句)**に言い換え、別の1人が推測する。

「tourist attraction (観光地)」→説明 **a popular place to visit**

「crowded (混んでいる)」→説明 **there are many people**

また発表前には、英文を全部書かせるのではなく、キーワードやイラストだけのメモを作成し、それを基に話したり書いたりして発表できるようにしていくことも表現する力を育てるのに有効です。